

第2回 横浜市戸塚区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和8年3月25日(水) 午後2時30分から5時00分まで
開 催 場 所	戸塚区役所9階特別会議室
出 席 者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 西尾 敦史(愛知東邦大学 人間健康学部 人間健康学科 教授)</p> <p>委員 曾根 よしみ(元戸塚区民生委員児童委員協議会 副会長)</p> <p>中瀬 明德(東戸塚地域活動ホームひかり 施設長)</p> <p>本庄 里実(東京地方税理士会戸塚支部 会員) ※財務状況説明のみ出席</p> <p>依田 浩美(とつか区民活動センター センター長)</p> <p>【事務局】</p> <p>戸塚区福祉保健センター長 緑川 斉</p> <p>戸塚区福祉保健課長 尾崎 太郎</p> <p>戸塚区福祉保健課事業企画担当係長 平野 亜由子</p> <p>戸塚区福祉保健課事業企画担当 平野 明日香、堀内 立夏、田中美穂、栗岡 愛</p>
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開(応募団体の面接審査、指定管理者の候補者(以下、「指定候補者」という。)及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者(以下「次点候補者」という。)の選定に関する審議について非公開。なお、応募団体の面接及び質疑応答は、他の応募団体に情報が漏れないことを確認したうえで公開)(傍聴者4人)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 会議の公開について 2 財務評価の方法について 3 審査手順及び各種照会結果の報告等について 4 応募団体の面接審査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 応募団体の面接審査 (2) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況の説明 (3) 採点 5 財務状況の説明 6 前期実績報告・採点 7 指定候補者及び次点候補者の選定、講評
決 定 事 項	<p>指定管理者の候補者及び次点候補者として、次のとおり、横浜市戸塚区長に報告することとする。</p> <p>横浜市深谷俣野地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者</p> <p>指定候補者：社会福祉法人 聖母会</p> <p>次点候補者：エフィラグループ株式会社</p>

議 事	<p>事務局から公募の結果本会で審査する施設については、2団体から応募書類の提出があった旨を報告する。</p> <p>1 会議の公開について</p> <p>応募団体審査、指定候補者及び次点候補者の選定に関する審議について非公開とすることを確認（第1回委員会で審議済）</p> <p>※なお、応募団体の面接（プレゼンテーション及びヒアリング）は、面接審査を受けている団体以外の応募団体を除き公開</p> <p>2 財務評価の方法について</p> <p>第1回委員会で「①健康福祉局による外部評価の結果を参考にし、財務に関する有識者が評価したものを選定委員会としての評価とする」方法で決定したが、財務に関する有識者が面接審査不参加（財務状況説明のみ出席）となり、決定した方法での評価が実施できないため、「②選定委員のうち財務に関する有識者が、健康福祉局による外部評価の結果を参考にして意見を付し、その意見を踏まえて各選定委員が評価をする」方法を採用することを、決定する。</p> <p>3 審査手順及び各種照会結果の報告等について</p> <p>○面接審査の進め方及び質問項目の確認 （事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明 ・最低制限基準に満たない場合は、再公募を行う旨を再確認 <p>○応募団体の資格要件等について （事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格要件を満たすこと、欠格事項に該当しないことを報告 ・欠格事項のうち、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けたこと、市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしていることを報告 <p>4 面接審査</p> <p>（1）面接審査</p> <p>【団体A：エフィラグループ株式会社】</p> <p>ア プレゼンテーション</p> <p>団体から、団体の概要、事業計画等について説明</p> <p>イ 主な質疑応答</p> <p>（委員）地域包括ケアシステムの推進における「よこはまポジティブエイジング」とは具体的にどう考えているのか、また、ボランティアや民間企業</p>
-----	--

	<p>との連携はどのように考えているか伺いたい。</p> <p>(団体) 高齢者の生きがいつくり、健康づくりといった、横浜市が推進している事業もケアプラザ内で連携して自主企画事業への内容に反映させることを考えている。また、ボランティアや民間企業との連携については、グループ内のネットワークを活用しながら、高齢者や障害者、子どもを対象とした事業に協力いただける企業やボランティア団体と繋がっていく。加えて、区内の挨拶回り等をしながら協力企業等を増やしていく。</p> <p>(委員) よこはまポジティブエイジングの方々がどう活躍できるのか。</p> <p>(団体) 健康講座などに講師として来ていただくというのが、わかりやすいイメージかと思う。</p> <p>(委員) グループ内の具体的な連携方法としては業務連携なのか、それとも業務委託なのか。</p> <p>(団体) グループ内には多様な連携パターンがある。別法人同士の業務委託契約もあれば、分野が類似した施設同士で流動的に行き来できる制度もある。社内F A制度も充実している。有事の際に声をかければ双方の事業領域をまたいで職員が行き来する、配置転換がしやすいので社内ではよくある。ただ、人員基準や加算算定に伴う欠員補充は当然できない。専門性を持っている方が望ましいとされる場合に、最低限の人員基準は満たしたうえで他から補充するというイメージである。</p> <p>(委員) 一つの法人内のグループ内で行き来をするということか。</p> <p>(団体) 両方ある。グループ内での行き来もあれば、本人の知見のために他法人の事業所で体験勤務するということもある。</p> <p>(委員) 子育て支援拠点等との連携をどう考えているか。また、保育園に入園している保護者層を地域に促す活動もぜひお願いしたい。</p> <p>(団体) 乳幼児期に関しては、通園している子どもに限らず、保育園が主催して地域の子どもや親子へのサポートになるような教室を様々な地域ですでに実施している。通園していない層とのつながりについても、これまでも意識して活動しているところ。通園している方も地域に溶け込めるよう、子育て広場等と連携してできることを考えていきたい。</p> <p>(委員) 地域の子育て支援している方は、色々サポートしたいと思って活動しているものの、通園している子どもやその親に限って地域の活動に集まりにくいという課題を抱えている。保育園が地域と連携して親子をつないでいければ、課題解決に向けた大きな展開が見込める。</p> <p>(委員) 居宅介護支援事業はどう活動していくのか。また、地域ニーズの把握とデータベース化とは、具体的にどこに繋いでどう活動するのか。</p> <p>(団体) 法人内の別地域で居宅介護支援事業をすでに行っている。地域に密着して訪問看護も行っている。本地域でも訪問看護ステーションと居宅支援事業をやればと考えている。データベース化は、地域の方々と顔を</p>
--	--

合わせて歩きながら情報を収集する。地域の課題の一つでもある買い物・移動困難などにおいて、社会資源の掘り起こしができるよう、様々な場所に訪問しながらデータベース化していくイメージを持っている。

(委員) データベース化したものをどこに持って行くのか。ケアプラザ内で使えるようにしていくのか。

(団体) ケアプラザ、ケアマネジャー、地域全体で使えるデータベースになれば良いと考えている。

(委員) 地域ケアプラザは横浜市行政の福祉保健医療のパートナーであることが特徴的であるが、今回そのパートナーとして指定管理で運営していこうと思われた動機は何か。

(団体) “誰も取り残さない”が当社のビジョン。地域の課題を事業によって解決していくというものも掲げているが、ケアプラザの運営は非常に重要な役割を担っていると考えている。例えば訪問看護事業をやっていると連携先としてのケアプラザの役割の重要性を痛感する。ケアプラザだけの収益でなく、法人全体で健全な利益を出せば良いと考えている。

(委員) チャレンジがあれば広げていきたいか。

(団体) もちろん。

(委員) 人材面で、現在は個別対応が中心だと思うが、ケアプラザの働きは地域を面で捉えてどんな地域活動を展開していくかという働きが重要だが、配置される人材はどう考えているか。

(団体) 経験がこれまでないため、見識のある方々に意見を伺いながら人材の配置を検討していく。望ましい人材のイメージができたときに実際に雇用できるのかということには自信を持っている。年間通して12,000名の応募があるため求人マーケットにおける競争力は高いと自負している。

(2) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況の説明
事務局より説明

(3) 面接審査

【団体B：社会福祉法人 聖母会】

ア プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

イ 主な質疑応答

(委員) (2つの自治会へのアンケートの) 全戸配布はどのようにやったのか。

(団体) 全戸訪問により対応した。

(委員) 拒否反応を示す人はいなかったのか。

(団体) 事前に各自治会への説明を行いブロックごとに回覧板をいれていたほか、民生委員も一緒に訪問したので不信感は少なかったと思う。

	<p>アンケートは地区別の結果を掲示板に貼っていただくようにしたこともあり、全戸拒否なく訪問できた。</p> <p>(委員) アンケート回収はどのように行ったのか。</p> <p>(団体) その場での聞き取り調査である。</p> <p>(委員) 障害分野については、障害のある子や親へのフォローはどのように考えているか。</p> <p>(団体) 障害のある方の暮らしを考える講座を開催した。ご本人やご家族が参加されて相談機関や制度等のご案内をした。参加された方の個別相談も受ける予定でいる。</p> <p>(委員) 開催された講座の対象には、子どもの障害も含まれているか。</p> <p>(団体) もちろん引きこもりになっている方なども対象としている。</p> <p>(委員) もっと小さい小学校低学年以下の子どもは含んでいるか。</p> <p>(団体) それらの方々にどう声をかけていくか難しいところだが、今回開催した講座のチラシの配布先として、学校の先生に相談をして校内での配布はしていただいた。</p> <p>(委員) 対象の年齢層は幅広くしていたということか。</p> <p>(団体) そう。金銭面や健康面など、将来のことも知識として得ていただくと良いかと思い幅広い年齢層の方に参加を呼び掛けている。</p> <p>(委員) 地域団体の担い手の課題について、裾野を広げる具体策はあるか。</p> <p>(団体) 近隣の大学と交流があるので、若い世代に関心を持ってもらうように声をかけている。</p> <p>(委員) 元気な高齢者を地域の担い手としてけん引するようなことができればとも思うがどうか。</p> <p>(団体) 要支援の認定を受けた人でもボランティアに参加されている人がいる。横浜市の介護予防生活支援サービス事業で活動団体が地域のサロンなどやっているが、こういったところにボランティア登録して 70～80代の方も活発に活動されている。</p> <p>(委員) 活動者とは別にボランティアの役割があるのか。</p> <p>(団体) そのとおり。参加者兼ボランティアというイメージである。</p> <p>(委員) 地域課題を解決するために企画した事業でマッチしなかった、あるいはやめたものがあるか。</p> <p>(団体) やめたものはない。出張で地域に出向いて講座を実施すると、ケアプラザで開催するよりは少人数だったことがあったが、集客方法の課題として受け止めている。</p> <p>(委員) ハートプラン意識調査については、どのような形で実施し、どのように意見を吸い上げたのか。</p> <p>(団体) 4つの大きな目標が地区にあるが、子どもから高齢者まで自分だったらできそうなこと、どの項目が重要かのシールアンケートを行った。こ</p>
--	--

	<p>れまでも継続してやっており、コロナ化前後での変化も見ながら今後に向けた策を地区社協と連携して取り組んでいる。</p> <p>(委員) これをベースに第5期計画でどうやっていけばいいかを事前に意見聴取していたということか。</p> <p>(団体) そのとおり。活動のベースとしている。</p> <p>(委員) 地区のイメージとして、ドリームハイツがかつて地域活動が非常に盛んであったが高齢化が進み10年ほど前には50%を超える状況があり、活動継続が難しいなかでも、周辺の深谷地域と連携して協議会を作り地域活動を進める形をとっていた印象があるが、ケアプラザ圏域の高齢化率としてはそれほど高くないように思える。</p> <p>(団体) 全体で均すとそこまで高くないが、ドリームハイツは突出して高い。</p> <p>(委員) もう一つ(高齢化に関して) 要介護認定率は比較的高いと思うが、区内で5番目というのは戸塚区内のケアプラザのなかでという意味か。</p> <p>(団体) そのとおり。</p> <p>(委員) となると、それほど高くない。とはいえ、(要介護認定率) 22.5%という数値は比較的高い印象を持つが、理由はどう考えているか。</p> <p>(団体) 介護認定を受けていてもサービスを使わない人もいる。</p> <p>(委員) 介護に対して意識をもっている人が多いということか。</p> <p>(団体) そう。これからどうしようという相談も増えている。</p> <p>(委員) 地域ケア会議のなかで2つの自治会に特にアプローチして全戸訪問したのは相当な密度の連携がないとできないと思うが、2つの自治会に焦点をあてた背景は。</p> <p>(団体) A自治会は坂道が多いところに焦点をあてた。B自治会はハザードマップで水害に引かかるエリアで、もともとの住民が高齢化で有事に困ると話している。一方で、新規住民もいるがなかなか繋がっていない。こうしたことから新旧住民がもっと繋がったらいいなと思ったことが理由。</p> <p>(委員) 他にもアプローチを広げるのか。</p> <p>(団体) エレベーターが設置されていない集合住宅もあり広げていきたい。地域ケア会議のなかで自分たちのところには来ないのかという話も出ている。工夫しながら回っていきたい。</p> <p>(委員) ケアプラザの職員配置も厳しいと聞くので、出向いていくのは必要性もありながら職員の体力も一方で必要だと思われる。</p> <p>(団体) もっと地域の話を知りたいという職員が多い。内部で協力体制を組んでいる。</p> <p>(委員) 職種を超えての思いを共有されているということか。</p> <p>(団体) そのとおり。</p>
--	---

(4) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況の説明
事務局より説明

5 財務状況の説明

本庄委員から財務分析結果報告書について説明

6 前期実績報告・採点

事務局から前期の指定管理業務（職員配置状況）について説明

7 指定候補者及び次点候補者の選定、講評

応募者から提出された応募書類及び面接審査等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計した。

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準に対する 得点／最低制限基準
指定候補者	社会福祉法人 聖母会	1,219点／1,650点	1,174点／870点
次点候補者	エフィラグループ 株式会社	1,093点／1,600点	1,033点／870点

(審査講評)

(1) 指定候補者（社会福祉法人 聖母会）

- ・2つの地区で全戸訪問アンケートを実施し、自治会と連携して取り組めた点は高く評価できる。地域ごとの多様なニーズ把握につながる意義ある取組であり、地域の課題に対する前向きな姿勢も感じられる。
- ・エリア特性からして、提案内容に障害児に関する視点が含まれていなかったことは今後の検討課題であるので、今後は当該視点も踏まえた取組の実施を期待する。
- ・区域や圏域の社会資源を的確に把握し、地域団体と関係性を築いた上で事業を展開している点は評価できる。ハートプランに言及している点からも、情報収集力と理解の深さがうかがえた。

(2) 次点候補者（エフィラグループ株式会社）

- ・情報発信については、ICTを活用した方法と高齢者向けのアナログな手法を組み合わせるという提案は評価できる点であった。
- ・「子ども」といえば学齢期以上を想定している印象が強く、乳幼児期の視点や取組が十分に見えてこなかった。
- ・区域や圏域における地域の社会資源に関する理解や活用については、まだ十分とは言えず、各分野においてどの社会資源をどのように活用していくのかに

	<p>ついて、今後さらに理解と整理が必要である。グループ内での連携に留まらず、地域に存在する多様な社会資源を活用し、加えて自分たちが有する資源を地域に還元して地域全体の力として生かしていくというものであれば、評価が高まったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアプラザ運営から法人が撤退する動きがみられる中、新しい形態で参入してきたチャレンジ精神は高く評価したい。今後の継続的な取組と発展にさらなる期待をしている。 <p>各応募団体の得点は、いずれも最低制限基準を満たしている。そのうえで、社会福祉法人聖母会の得点が最も高得点であるため、選定委員会としては、社会福祉法人聖母会を指定候補者として選定し、次に得点が高いエフィラグループ株式会社を次点候補者として選定することを決定する。</p>
<p>資 料 ・ 特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 【資料1】 審査方法について (2) 【資料2】 面接審査について (3) 【資料3・4】 各種照会結果について (4) 【資料5】 前期の指定管理業務の実績報告書 (5) 【参考】 タイムスケジュール (6) 応募関係書類一式 (7) 採点表一式 <p>2 特記事項</p> <p>特になし</p>